

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-10-26

なし

(発行年 / Year)

1910

第五章 不法行為

(理由) 本章ハ既成法典財産編第二章第一節第三節ニ相當シ義務ノ特別原因タル不法行為ニ關スル規定ヲ揭タルモノトス而シテ既成法典ハ財産編第二章第一章ヲ題シテ義務ノ原因ト稱スルニ拘ハラス同章第三節ニ於テハ義務ノ原因タル事實ノ結果ヲ取リテ之ヲ不正ノ損害ト題スルハ頗ル其當ヲ失スルノミナラス不正ノ損害ナル用語ハ廣ク德義上ノ意義ヲ包含シ通常不正ノ損害稱スヘキモノニシテ法律保護ノ範圍外ニ在ルモノ少カラス又不正ノ損害ナル表題ハ諸國ノ立法例ニ依リテ本章ノ表題ヲ定メ之ヲ不法行為ト改メテリ蓋シ本章ノ表題ニ付キテハ諸國ノ立法例頗ル區々ニシテ或ハ之ヲ損害賠償ノ一部トシ或ハ法律ノ規定ニ因ル義務ノ中ニ包含セシメ或ハ許サレサル行為ト稱シテ獨立ノ一章ト爲スト雖モ要スルニ本章ニ規定スル所ノ權利侵害ノ行為ハ故意又ハ過失ニ因ル不法ノモノナレハ不法行為ナル表題ヲ以テ其當ヲ得ヌモノトス

其他既成法典ハ羅馬法以來普通ニ慣用セラレタル犯罪及シ准犯罪ナル用語ニ依リテ不正ノ損害ナルモノヲ説明スト雖モ之レ其必要キノミナラス犯罪及シ准犯罪ナル用語ハ民法上頗ル其當ヲ得サルモノニシテ近世ニ至リ學說上ニ於テモ概テ有意又ハ無意ノ區別ヲ爲スニ止マルノミナレハ本案ハ固ヨリ斯ノ如キ用語ヲ删除セリ

(理由) 本條ハ不法行為ニ本ヲテ損害賠償ノ責任ニ關スル原則ヲ定ムルモノニシテ既成法典財產編第三百七十九條第一項ニ相當シ同條第二項及シ第三項ハ本條ヲ認メザル犯罪及シテ准犯罪ヲモルモノノ意義及シ共責任ニ關スル説明ニ過キサレハ共ニ之ヲ删除セザレバ既成法典同條第一項ニ對シ修正ノ大要ヲ示サレ

一、本條ニ於テ權利侵害ノ行為ハ故意又ハ過失ニ因ルトシ既成法典ハ之ヲ過失又ハ懈怠ニ因ルト爲スハ單ニ文學上ノ修正ニ止マリ共責任ニ於テ異ナル所ナレ之ヲ諸國ノ立法例ニ徵スルニ不法行為ニ本ヲテ損害賠償ノ責任ヲ定ムルニ付シテ個ノ立法主義ヲ大別スルコトヲ得一ハ即チ過失主義トモ稱スヘキモノニシテ損害ノ原因タル行為爲レタル者ニ故意又ハ過失アルコトヲ要ストレバ即チ原因主義トモ稱スヘキモノニシテ行為ト關係ノ關係ニ限リ其行為爲レタル者カ充分ノ注意ヲ加ヘタルニ拘ハラス賠償ノ責任ヲ負擔セザルヘカラスト爲セモノトス而シテ原因主義カ嚴シ失テ各人活潑ノ妨害ヲ爲レ實際ノ生活ニ適セザルコトハ多數ノ立法例ニ於テ確證スル所ニシテ學說トシテ正當ナルヘレト雖モ立法上ニ於テハ固ヨリ採用スルコトヲ得サレ理論タルニ過キサルニ因リ本條ハ既成法典ノ如ク過失主義ニ從フモノニシテ故意又ハ過失ノ存セザル限リハ賠償ノ責任ヲ生セザルモノトス

二、故意又ハ過失ニ本ヲテ行為ハ之ニ因リテ他人ノ權利ノ侵害シタルニ非サレハ損害賠償ノ責任ヲ生セザルモノトス蓋シ不法行為ニ關スル規定ハ之ニ依リテ既ニ存在セシ他人ノ權利ヲ保護スルモ

ノナレハ或事業上他人ト競争シテ此者ニ損失ヲ被ムラシメタル場合ノ如キ未ダ權利ノ侵害シタルニ非サレハ賠償ノ責任ヲ生ズルコトナラ故ニ多數ノ立法例ニ依リハ權利侵害タルコトヲ以テ特ニ不法行為ノ原因中ニ明示セスト雖モ共同スル所ハ權利ト認ムヘキモノヲ侵害シタルトキニ限リ賠償ノ責任ヲ生ズルモノニシテ既成法典モ亦單ニ損害ヲ加ヘタル事實ヲ以テ明示シテ原因タル事實ヲ明示セザルモノノ後ニ至ラテ疑ヲ生ズルモノニ對シテセザルニ因リ本條ハ特ニ權利侵害ノ數字ヲ加ヘ損害ノ原因タル事實ヲ明確ナラシメテリ而レテ此ニ所謂權利トハ固ヨリ財產上ノ權利ニ限ラザルコトハ本編ノ立法主義ニ照ラシテ次條ノ明文ニ依リテ疑ヲ容レザル所トス

三、既成法典ハ不法行為ニ因リ損害ヲ以テ財產上ノ損害ニ限リタルコトハ債權ノ目的ヲ以テ財產上ノ價值ヲ有スルモノニ限リタル立法主義ニ依リテ殊ニ起草者ノ説明ニ依リテ明白ナリト雖モ本條ハ既ニ之ニ反對ノ立法主義ヲ採用シタルノミナラス權利ノ侵害ハ固ヨリ財產權ニ付テモ存スルニ限ラザルモノナレハ本條ハ不法行為ニ因リ損害ノ範圍ヲ財產上ノ損害ニ限ラス損害ヲ證明スルコトヲ得ハ其財產上ノモノタルト否ト問ハス適當ノ方法ニ依リテ總テ其賠償ノ求ムルコトヲ得セザルモノトス之レ即チ今日進歩シタル社會ノ需要ニ應スルニ至當ノ立法主義ニテ本條ノ次條ニ於テ更ニ其趣旨ヲ明白ニセリ

第七百九條

(理由) 不法行為ノ第一原則タル本條第七百八條ノ規定ハ既ニ説明セシ如ク權利ノ範圍ヲ財產權ニ限

ラサルト同時ニ賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘキ損害ノ範圍ヲ財產以外ノ損害ニ及ホスモノナリト雖モ單ニ此範圍ヲ揚グルルニ止マルトキハ其適用上ニ於テ種々ノ疑ヲ生ゼシムル虞ナシトセズ即チ身體自由又ハ名譽ニ加フル侵害ノ如キハ從來多クハ之ヲ民法上ノ不法行為中ニ加ヘザリシモノニレテ既成法典ノ如キハ固ヨリ此等ノ侵害ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ認ザサルノミナラス右ノ侵害ハ當然權利ノ侵害ト稱スルコトヲ得ルコトヲ付テハ學說上ニ於テモ異論少クヨリナルニ因リ近世ノ立法例ニ依ルハ不法行為ニ關スル原則外ニ特ニ身體自由又ハ名譽ノ侵害ニ因リテ損害賠償ノ責任ヲ生スル旨ヲ規定シ或ハ獨乙民法第一章條ノ如ク此等ノ侵害モ亦權利ノ侵害タルコト明示スル例ヲ生ゼシレ即チ本案モ本條前段ノ規定ニ依リテ身體自由又ハ名譽ニ對スル侵害モ亦財產權ニ對スル侵害ト同レク權利ノ侵害タルコトヲ明示シ且此侵害ニ依リテ生ズル損害ハ財產上ノモノニ非ズト雖モ總テ之ヲ賠償セシムヘキ旨ヲ明ニシテ前條ノ適用上疑ヲ生ゼシムルコト勿カラシムル所以ニレテ身體ハ勿論自由名譽ノ如キハ社會ノ進歩ト共ニ最も貴重ナル生存要件ヲ爲スモノナレハ法律ハ宜シク適當ノ方法ヲ盡シテ之ヲ保護スルコトヲ務メザルヘカヲサレハナリ

第七百十條

(理由) 本條ハ不法行為ノ責任ニ關スル特別ノ場合ヲ規定スルモノニシテ既成法典ニ其例ナレト雖モ實際上極メテ必要ナルヲ以テ多數ノ立法例ヲ參照シテ新ニ之ヲ加ヘタリ蓋シ本條ニ示ス所ハ屢發生スルコトナルニ拘ハラズ被害者ノ父母配偶者又ハ子ハ被害者ノ死亡ニ因リテ財產權ハ勿論明ニ權利

ト稱スヘキモノヲ侵害セラレタルコトヲ證明スルコト能ハサル場合少シトセズ而シテ此等ノ者ニレテ自己ノ權利ヲ害セラレタル事實ヲ證明スルコトヲ得ハ固ヨリ第七百八條ノ原則ニ依リテ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ本條ノ場合ノ如キハ被害者ノ父母配偶者又ハ子ハ或ハ其係屬スル者ヲ失ヒ或ハ非常シク悲哀ヲ感シ普通ノ權利侵害スニ比テ不法行為ノ害ヲ蒙ルコト大ナル拘ハラズ被害者ノ生存ニ付キ權利ヲ有シタリト云フコトヲ得サルカ爲メ權利侵害ニ因ル損害ヲ證明スルコト能ハシレテ終ニ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ザルノ不幸ヲ招ヘシ之ト即チ本案ハ特ニ本條ノ規定ヲ設ク被害者ノ父母配偶者及ヒ子ハ假令其財產權ヲ害セラザリ場合ト雖モ加害者ノ對シ損害賠償ヲ請求シ得ルコトヲ認ムル所以ニレテ羅馬法ニ於テハ斯ノ如キ請求權ヲ認メザリト雖モ近世諸國ノ法典ハ多クハ本條ノ如キ規定ヲ設ケ其請求權者ハ或ハ子ハ或ハ遺子トレ或ハ之ニ父母ヲ加ヘ或ハ倉屬親及ヒ再ヒ婚嫁スルマデノ寡婦トシ若クハ成年以下ノ子及ヒ再ヒ婚嫁スルマデノ寡婦ト爲スモノニレテ本案ハ此等ノ立法例ニ倣ヒ請求權者ノ範圍ヲ適當ニ限定シテ被害者ノ一親等ノ者及ヒ其配偶者ト爲セリ

第七百十一條

(理由) 本條以下數條ハ不法行為ノ責任者ニ關スル變例ノ規定ニスモノニシテ本條ハ既成法典財產編第三百七十二條第一項ニ修正ヲ加ヘ未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於ケル責任ノ有無ヲ定メタリ蓋シ未成年者ヲシテ不法行為ノ責任ヲ負ハシムルヤ否ヤニ付テハ諸國ノ立法例ハ之ヲ二種ニ

大別スルコトヲ得ヘクハ即チ責任ヲ負ハレムヲ以テ原則トシ未成年ナルコトハ不法行為ノ責任ニ關係有セスト認ムルモノニシテ他ハ即チ責任ヲ負ハレムヲ以テ原則トシ然レトモ羅馬法以來行為能力ニ關シテ普通ニ採用セラレタル立法主義ニ從ヒ年齢ニ依リテ責任ノ有無ニ定メ或ハ未成年者ノ辨識力ヲ標準トシテ之ヲ決スルモノトス而シテ既成法典ハ未成年者ノ不法行為ニ付テハ無責任ノ原則トシ時トシテ責任アリト宣告セラルコト有リト云フニ止マリ果シテ如何ナル場合ニ於テ此責任ヲ認ムルヤニ付キ適當ノ標準ヲ示サズ又羅馬法ヲ繼承シタル獨乙諸邦ノ如ク七才又ハ十二才ト云フ如キ立法者カ隨意ニ指定シタル年齢ニ依リテ責任ノ有無ヲ定ムル立法例モ亦其當ヲ得タルモノト云フヘカラス要スルニ未成年者ト雖モ其行為ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルコトキハ宜シク賠償ノ責任ヲ負ハレムコト雖モ未タ其行為ノ善惡ヲ辨別スル知能ヲ具ヘサル未成年者ヲシテ總ア行為ノ責任ヲ負ハレムルハ亦同ヨリ立法ノ本旨ニ適シムルモノト云フヘカラス故ニ本案ハ未成年者ノ不法行為ニ付テハ行為ノ責任ヲ辨識スルニ足ル知能ヲ具ヘレバ否ヤヲ以テ賠償ノ責任ヲ定ムル標準トシ既成法典ノ欠點ヲ補フト同時ニ右標準ヲシテ事物ノ實際ニ適シシメタリ

第七百十二條

(理由) 心神喪失者ニ不法行為ノ責任ヲ負セシメテ其監督者ノ責任ニ歸スルハ諸國ノ立法例ニ於テ殆ト一致スル所ニシテ英國ニ於テハ之ニ反對ノ立法主義カ存スル如ク主張スル者少カラスト雖モ斯レ如キ判決例ハ一モ存セサルカ如シ而シテ既成法典財產編第三百七十二條第三項ニ立法例ト同一ノ

趣旨ニ本ツクモノナリト雖モ心神喪失者カ不法行為ノ責任ヲ負セサル本則ヲ示スニアラス殊ニ既成法典ノ如ク單ニ癡癩自知者ト云フトキハ一方ニ於テハ心神喪失者ノ範圍ヲ狭クシ一方ニ於テハ此等者ヲ本心ニ復シタル場合ヲモ包含セシムル如ク聊カ廣ニ失スル虞アルニ因リ本案ハ心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責任ヲ負セスト法律ノ本則ヲ示スル同時ニ其適用ノ受クベキ者ノ範圍ヲ適當ニ限定セリ

然レトモ心神ヲ喪失スルコトハ疾病其他治療上ノ必要等ニ因リ毫モ自己ノ故意又ハ過失ニ因ラザルコトアリ或ハ多量ノ飲酒ニ因リ故意又ハ過失ニテ一時心神ヲ喪失セシムルコトアリ前ノ場合ニ於テハ心神喪失者ヲシテ其行為ニ付キ固ヨリ責任ヲ負ハシムル理由ナレバ雖モ後ノ場合ニ於テハ假令心神喪失中ニ爲レタル行為トモ既ニ故意又ハ過失ノ存スル限ハ決シテ其實ヲ免カレ得ヘキニテアラス之レ即チ第七百八條ノ本則ニ依リテ自ラ明白ナルヘレト雖モ本條ニ於テ心神喪失ノ間ニ爲レタル行為ハ責任ヲ生セシメサル本則ヲ掲ケタルニ因リ或ハ疑議ヲ生セシムルコトヲ應リ本條但書ノ規定ヲ設テ自己ノ故意又ハ過失ニテ一時心神ヲ喪失シタル者ハ喪失中ニ爲レタル不法行為ニ付キ其實ヲ免カルコトヲ得ザル旨ヲ明ニセリ

第七百十三條

(理由) 本條ハ既成法典財產編第三百七十二條及ヒ第三百七十二條ヲ合シテ之ニ修正ヲ加ヘタリ即チ既成法典第三百七十一條ハ自己ノ不法行為ニ本ツク損害賠償ノ責任ヲ負セサルハ勿論他人カ自己ノ威權

ノ下ニ在ル限ハ此者ノ不法行為ニ付テモ亦其責任ニ付テモカラスト爲スト雖モ之レハ羅馬法ノ舊套ヲ親守スルモノニシテ羅馬法ノ如ク家長ノ威權ノ下ニ從屬セル者ノ獨立ノ人格ヲ認メシメテ家長ノ人格中ニ埋没セラルルモノト認ムルニ於テハ或人カ他人ノ行為ニ付テモ其責任ニ付テモ敢テ怪ムニ足ラズト理論ニ適レタルモノト云フヘカラス故ニ本條ハ多數ノ立法例ノ如ク本條ニ於テ前二條ニ掲グル無能力者ヲ監督スヘキ法定義務者ハ其無能力者カ第二者ニ加ヘタル損害ヲ賠償セサルヘカラスト云フトヲ認ムト雖モ此責任ハ右法定義務者ヲ監督義務ヲ怠リタルニ因リテ生ズルモノニシテ即チ自己ノ故意又ハ過失ヲ責任ニ外ナラス從テ其義務ヲ怠ラサリシコト證明スルトキハ賠償ノ責ヲ免カルヘキモノト爲セリ加之前二條ノ規定ニ依リ無能力者カ自ら不法行為ノ責任ニ付スヘキトキハ監督義務者ハ因ヨリ賠償ノ責任ヲ負フヘキ理由ナキニ因リ本條前段ノ規定ニ依リ監督義務者カ責任ヲ負フヘキ場合ヲ限定セリ

既成法典前編第三百七十二條ハ監督者及ヒ其威權ノ下ニ在ル者ヲ列舉スト雖モ煩雜ニシテ却テ脱漏ノ虞ナレトセサルニ因リ本條ハ客觀的ノ通則ヲ掲グル本條第一項ニ於テハ父母後見人等ノ如キ無能力者ヲ監督スヘキ法定義務者ノ責任ヲ規定シ第二項ニ於テ教師師匠等ノ如キ法定義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スヘキ者即チ所謂約定義務者モ亦法定義務者ト同一ノ責任ニ付スヘキ通則ヲ掲グルリ其他既成法典ハ佛國民法ニキテ同第三百七十二條ニ掲グル責任者ノ損害ノ所爲ヲ

防止スルコト能ハサリシコトヲ證明スルトキハ其責任ニ付セザル旨ヲ規定スト雖モ防止ノ能不能ハ實際上極メテ判定シ難キニ因リ本條ハ獨乙民法草案編士債務法其他二三ノ立法例ニ依リ本條第一項但書ノ規定ニ依リ本條ノ責任者ハ監督ノ義務ヲ怠ラサリシコトヲ證明スルトキハ賠償ノ責任ニ付スル爲セリ

第七百十四條

(理由) 本條ハ既成法典前編第三百七十二條ヲ修正セリ即チ既成法典ハ使用者及ヒ被用者ヲ列記スト雖モ本條ハ前條ニ於ケル如ク概括的ニ之ヲ指定シ次ニ既成法典ハ使用者ノ責任ヲ以テ單一被用者ノ責任ノ失當ニ存ズルモノト認ムルコトヲ起算者ノ說明ニ依リ疑ヲ容レシメ雖モ使用者ノ責任ハ亦同ヨリ事業監督上ノ失當ニ基クモソナレハ本條ハ被用者ノ責任ハ勿論事業ノ監督ニ付キ使用者ノ不注意ノ摩アルトキハ被用者カ使用者ノ事業ヲ執行スルニ付キ第二者ニ加ヘタル損害ニ對シ使用者ヲレテ其責任ニ付スルモノト然レトモ使用者カ右ノ責任及ヒ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ加ヘタルトキ又ハ之ヲ加フルモ損害ヲ生ズヘカリス場合ニ於テモ例外且此者ヲレテ賠償ノ責任ニ付セルモノハ立法上正當ノ理由ナキ所ニシテ既成法典ハ前編第三百七十二條ニ掲グル責任者ノ對シ此者カ損害ノ所爲ヲ防止スル能ハサリシコトヲ證明スルトキハ其責任ニ付セザル例外ヲ規定スルニ拘ハラズ同第三百七十二條ニ於テ使用者ノ對シテハ之ト同様ノ例外ヲ設ケザルハ願ル共當ヲ失スルモノト云ハサルヘカラス故ニ本條ハ前條ト同一ノ趣旨ニ本條但書ノ規定ヲ設ケテ使用者ノ責任ヲ限定シ併セテ事

業ノ發達上多人數ヲ使用セサルハカフサル事業ノ増加シタル今日ノ狀況ニ適セシメタルノミナラス
 既成法典ノ如ク被用者ノ不法行為ハ使用者ノ職務ヲ行為又ハ之ヲ行フ際際生レタルモノト
 爲シキハ廣クニ失スル虞アルニ因リ木案ハ單ニ被用者ノ事業ノ執行ニ付キ第二者ニ加ヘタル損害
 ト改メテ

其他五條第二項ハ前條第二項ト同一ノ趣旨ニ本ウケモノニシテ本條第二項ハ使用者又ハ監督者ヲ被
 用者ニ對シテ求償權ヲ行使シ得ヘキコトヲ認ムル至當ノ規定タレハ別ニ說明ヲ要セス

第七百十五條

(理由) 請負人カ注文ノ仕事ヲ爲スニ付キ第三者ニ損害ヲ加フルコトアルハ實際上屬見ル所ナリ雖
 注文者ト請負人トノ關係ハ前條ニ掲ケタル使用者ト被用者トノ關係トハ大ニ其趣アリ異ニシ注文者
 ハ請負人ヲ選任シ之ヲ使用スルニアラスシテ請負人ハ獨立シテ一種ノ職業ヲ營ム者タルノミナラス
 注文者ハ其仕事ヲ監督スルモノニ非サレハ請負人ハ假令注文者ノ仕事ニ付キ第三者ニ損害ヲ加フル
 モ注文者ノ共責ニ任スヘキ理由ヲ失フ然レトモ既ニ前條ノ明文アルトキハ注文者ヲ請負人トノ關
 係ニ付テモ亦之ヲ適用スヘキノナルカノ疑ヲ生シセムルモノミナラス注文者カ注文又ハ指圖ニ付キ
 過失アリタルトキハ請負人カ第三者ニ加ヘタル損害ニ付キ固ヨリ其責任ヲ負ハサルモレモ
 レハ此趣旨ヲ明白ナラシムル爲メ本條ノ規定ヲ設ケタリ

第七百十六條

(理由) 本條ハ工作物ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於ケル賠償ノ責任者ヲ規定スルモノニシ
 テ既成法典財産編第三百七十五條ニ相當シ左ノ諸點ニ於テ之ニ修正ヲ加ヘタリ
 一 既成法典ハ德國民法キ系ニ屬スル諸國ノ法典ノ如ク工作物ノ所有者ヲ以テ賠償ノ責任者ト爲スト
 雖モ木案ハ英國及シ獨逸諸國ノ立法主義ニ倣ヒ通則トシテ工作物ノ占有者ヲ以テ其責任者ト定メ
 タリ蓋シテ工作物ノ所有者ト其占有者カ相異ナル場合ニ於テ其工作物ノ因リテ生スヘキ損害ノ豫防
 スルニ付キ直接ノ關係ヲ有スル者ハ所有者ニ非ラスレバ占有者タルハ勿論ニシテ既ニ貸借借ニ付
 キ目的物ノ修繕ハ所有者ノ負擔ナルモ賃借人ハ其保存ニ注意セサルカラサカ如ク占有者ヲシ
 テ本條ノ責任ヲ負ハシムルハ此等ノ條文ニ對照スルモ固ヨリ至當ニシテ且ツ之ニ依リテ實際ニ便
 宜ニ適セシムルコトヲ得ルモノト云フヘシ然レトモ占有者カ損害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注
 意ヲ爲シタルニ拘ハラズ尙ホ此者ヲシテ賠償ノ責任セシムルハ其理由アリキニ因リ此場合ニ於テハ
 工作物ノ所有者アレテ其責任任セシムルヲ以テ註語トス之レ即チ本條但書ノ規定ヲ設ケル所以ナリ
 二 既成法典ニ於テ建物其他ノ工作物ト稱スルハ一方ニ於テハ如何ナル工作物ヲ包含シテ廣キヲ失
 スル如ク又一方ニ於テハ土地ノ工作物ヲ含マシテ狹キニ失スル嫌ナキ能ハサルニ因リ木案ハ本
 條ノ場合ハ土地ニ附著スル工作物ニ限定スルヲ以テ至當ト認ム此趣旨ヲ明確ナラシメタリ故ニ土
 地ノ工作物以外ノ物ニ因リテ生スル損害ニ付テハ第七百八條ノ通則ニ依リテ其責任ヲ定ムヘシト
 雖モ竹木ノ栽植又ハ支持ノ環繞アリテ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ノ如キ竹木ハ土地ノ工作物ト稱

スルコトヲ得スト雖モ加害ノ状況ハ土地ノ工作物因リテ生ズル損害ト殆ト同一ナルニ因リ木
案ハ本條第二項ノ規定ヲ設ケ右ノ場合ニ於テハ第一項ノ規定ヲ適用スヘキモノト爲セリ

三既成法典ハ財産編第三百七十五條第二項ニ於テ種々ノ場合ヲ列記シ特ニ第一項ト同一ノ責任ヲ生
スヘキ旨ノ規定スト雖モ右列記中ノ事項ニシテ寧ロ不法行為ノ通則ニ從ハシムルヲ以テ至當ノ爲
スヘキモノアリ又其他ノ事項ハ本條第一項ノ規定中ニ包含セラルヘキニ因リ木案ノ總テ之ヲ刪除
セリ

四既成法典ハ單三工作物ノ築造ノ瑕疵ニ因リテ損害ヲ生ズル場合ニ於テ之ヲ賠償セシムル所看者カ
工事請負人ニ對シテ求償權ヲ有スル旨ノ規定スルニ止リテ廣ク他ノ損害ノ原因ニ付キ其責任ス

ヘキ者アル場合ノ豫定セサルハ其餘照ト云ハサルヘカサルニ因リ木案ハ本條第二項ノ規定ヲ設
ケ損害ノ原因ニ付キ他ニ其責任スヘキ者アルトキハ前二項ノ規定ニ依リ既ニ賠償シタル占有者
又ハ所有者ハ此者ニ對シテ求償權ヲ有スル旨ヲ明示セリ

第七百十七條

(理由) 本條ハ既成法典財産編第三百七十四條ニ相當シ諸國ノ法典ニ於テモ之ト同様ノ規定ヲ設
ト雖トモ立法例ハ頗ル區々ニシテ得失ノ有無ニ關セス動物ノ所有者又ハ占有者ヲシテ其動物カ他人
ニ加ヘタル損害ヲ賠償セシムルモノアリ或ハ責任者ヲ豫定シ然モ此者若クモ過失ナキコトヲ證明スルト
キハ其責ヲ免カレ得ヘレト爲スモノアリ而シテ既成法典ハ賠償ノ責任者ヲ以テ所有者又ハ加害ノ當

時ニ取カケル使用者ト爲スト雖モ木案ハ既ニ前條ニ於テ採用シタルト同一ノ主義ニ依リ動物ヲ保管ス
ル者ノ通常其占有者タルヘキニ因リ保管ヲ怠リタル爲スニ動物カ他人ニ加ヘタル損害ニ付キ其責ヲ
任スヘキ者ハ通則トシテ動物ノ占有者タルヘシト爲セリ然レトモ占有者若クモ相當ノ注意ヲ以テ保管ヲ
爲シタルニ拘ハラズ尙ホ此者ヲシテ賠償ノ責任セシムル理由ナキニ因リ本條第一項但書ノ規定ヲ
設ケタルモノニシテ其趣旨ニ於テハ既成法典ノ異ナル所ナスト其他本條第二項ハ第七百十三條第二
項及第七百十四條第二項ト同一ノ趣旨ニ本ワラフモノナレバ別ニ說明ヲ要セス

第七百十八條

(理由) 本條ハ數人ノ共同シテ一箇ノ不法行為ヲ爲シ或ハ數人カ單ニ不法行為ヲ共ニ爲シタル場合ニ
於テ其損害賠償ノ責任ヲ規定スルモノニシテ既成法典財産編第三百七十八條ヲ修正セリ即チ既成法
典ノ連帶債務ニハ代理關係ノ存スルモノトシテ從テ數人カ共謀シテ不法行為ヲ爲スニ非サレハ連帶ノ
責任ヲ生ズルコトナク其他ノ場合ニ於テハ各自ノ過失又ハ懈怠ノ部分ヲ知ル能ハサルトキハ所謂全
部義務ヲ生ズル規定スト雖モ木案ノ連帶ニハ必ズ代理關係ノ存スルコトヲ推定スルモノニ非ス又全
部義務アル地ノヲ認メサルノモノナラス本條ノ場合ニ於ケル如ク數人ノ共同シテ一箇ノ不法行為ヲ爲
シ之ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之レヨリ生ズル債務モ亦ナルニ因リ共謀ノ有無ヲ問ハ
ス各自ヲシテ連帶ニテ賠償ノ責任ヲ負ハシムルハ至當ニシ且便利ナリト認メ本條第一項前段ノ規
定ニ依リ總テ連帶ノ責任ヲ負フモノト爲セリ而シテ數人カ單ニ各自ノ不法行為ヲ共ニ爲シタルモノニ

レテ共同ニテ一個ノ不法行為ヲ爲シタルニ非スト雖モ共同行為者中ノ何人カ損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサル場合ニ於テ被害者ハ必スレモ加害ノ本人ヲ證明シテ此者ノミニ賠償ノ責任ヲ負ハレメサルヘカラストセハ其證明ハ極メテ困難ニシテ被害者ハ往々賠償ヲ求ムルコト能ハサルノミナラス假令共同行為者中ノ或人ノミカ異ニ損害ヲ加ヘタルニ止マレモ共同行為者ハ幾分か其損害ヲ生シタルニ助勢シタルモノナリト云フモ敢テ不當ニ非サルヘシ故ニ本條第一項後段ノ規定ニ依リ共同行為者中ノ孰レカ損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキハ尙ホ連帶シテ賠償ノ責任セサルヘカラストシ實際ノ必要ニ適セシメタリ

不法行為ヲ放散シ又ハ之ヲ幫助シタル者ハ刑事上ニ於テハ不法行為ノ本人ト同一ノ責任ヲ負フコトナレト雖モ民事上ニ於テハ共同行為者トシテ總テ連帶ノ責任ヲ負ハレムルヲ以テ至當トス然レトモ此等ノ者ハ或ハ共同行為者ト認メ難キニ因リ本條ハ特ニ本條第二項ノ規定ヲ設ク放散者及ヒ幫助者ヲ以テ共同行為者ト見做スヘキ旨ヲ明セリ

第七百十九條

(理由) 本條ハ所謂正當防衛又ハ自助自衛ニ關スル規定ニシテ不法行為ノ責任ハ行為ヲ爲シタル者ノ故意又ハ過失ニ存スル以上ハ本條ノ場合ノ如キ他人ノ不法行為ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得スレテ加害行為ヲ爲シタル者ハ固ヨリ故意又ハ過失ナキモノナレハ其加害行為ニ對シ何人ニ對シテモ責任ヲ負フヘキ理ナシト雖モ右ノ加害行為ヲ爲シタル者カ自己ニ不法行為

ヲ加ヘタル者以外ノ第三者ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テモ其責任ニ於テハ往々疑難ヲ生スルコトナレトモ之レ即チ本條ハ既成法典ニ其例ナレト雖モ多數ノ立法例ニ倣フテ本條ノ規定ヲ設ケ本條ノ揭クル所ノ加害行為者ハ何人ニ對シテモ損害賠償ノ責任ニ任セサル旨ヲ明セシ殊ニ但書ノ規定ニ依リテ被害者ハ加害者ヲシテ損害ヲ加フルニ至ラレタル者即チ加害者ニ對シ不法行為ヲ爲シタル者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケサル旨ヲ示セリ

本條第二項ノ場合ハ他人ノ不法行為ニ因リテ或人カ加害行為ヲ爲シタルニ非スト雖モ他人ノ物ヨリ生シタル急迫ノ危難ヲ避クル爲メニ加害行為ヲ爲スニ至リタルモノニシテ其狀況宛々第一項ノ場合ト異ナル所ナキニ因リ此場合ニ於テハ第一項ノ規定ヲ準用スルモノト爲セリ

第七百二十條

(理由) 本條ハ既ニ私權享有ノ通則タル第一條ノ規定ヲ設ケルニ當リ既成法典人事編第一條ノ如ク胎兒ノ利益トナルヘキ場合ニ於テハ總テ之ヲ胎兒ト同視スル概括的ノ規定ハ往々意外ノ結果ヲ生セシムル虞アルニ因リ斯ル如キ通則ハ特ニ之ヲ揭ケスレテ胎兒ノ利益ヲ保護スル必要アルトキハ其處ニ就テ規定ヲ設クヘキ旨ヲ證明セリ而シテ本條ハ即チ胎兒ノ既生兒ト同視スルコトヲ要スル特別ノ場合ヲ規定スルモノニシテ不法行為ニ因リ胎兒ノ親カ殺害セラレタル場合ノ如キ胎兒ハ其受テヘキ利益ヲ失フコト極メテ大ニシテ法律ハ固ヨリ之ヲ保護セサルヘカラストルニ因リ本條ハ多數ノ立法例ニ倣ヒ殊ニ第一條ノ趣旨ニ本キ本條ノ明文ヲ揭ケタリ

第七百二十一條

(理由) 不法行為ニ因ル損害ト債務不履行ニ因ル損害トハ其性質ヲ異ニススト雖モ之ヲ賠償セシムルニ付キ別段ノ意思表示ナキ限ハ金錢ヲ以テ其額ヲ定ムルノ便宜ニ至リテハ取テ異ナル所ナキヲ以テ本條第一項ハ不法行為ニ因ル損害ノ賠償ニ付テハ債務不履行ニ因ル損害ノ賠償ニ關スル第四百十六條ノ規定ヲ準用スルモノト爲セリ

次ニ不法行為ニ因リテ損害ヲ受ケタル者カ自己ニ過失アリタルトキハ恰モ債務不履行ニ付キ債權者ニ過失アリタルトキノ如ク損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付テ裁判所ヲシテ被害者ノ過失ヲ斟酌スルコトヲ得セシムルハ不法行為ノ場合ニ於テ一層至當ノ理由アリトス然レトモ既ニ第七百八條ノ通則アル以上ハ假令被害者ニ過失アルモ加害者ヲシテ損害ノ全部ヲ賠償セシメサルヘカラサルカノ疑ヲ生セシムルニ因リ特ニ本條第二項ヲ明文ヲ掲ケザリ而シテ未ダ場合ニ於テ債務不履行ニ關スル第四百十七條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ザル所以ハ債務ノ不履行ニ關シ債權者ニ過失アルトキハニ因リテ裁判所ハ損害賠償ノ責任ノ有無ヲモ斟酌スルモ不法行為ノ場合ニ於テハ苟モ加害者ニ不法行為ノ存スル限ハ損害賠償ノ責任ノ有無ヲ問フニ及ハサレハナリ

第七百二十二條

(理由) 本條ハ既ニ不法行為ヲ範圍ヲ擴張シテ財産以外ノ損害ニ付テモ其賠償ヲ求メ得ヘキコトヲ認ムルニ因リ名譽ヲ毀損セラレタル者ト雖モ亦固ヨリ之ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘドト雖

モ名譽ヲ毀損ハ其性質上必ズシモ金錢其他ノ物損ヲ以テ賠償スルコトヲ得ヘキモノニアラス被害者ハ寧ろ其回復ヲ希望スルモノニシテ固ヨリ至當ノ事ナレハ假令巨額ノ賠償ヲ以テスルモ被害者ヲレテ強ヒテ之ヲ以テ満足セシムルハ法律上名譽ヲ保護スル點ニ於テ完全ナリ云フヘカラス故ニ本條ハ名譽ニ對スル不法行為ニ付テ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ加害者ニ對シ損害賠償ニ代ヘテ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分例ヘハ謝罪ノ意ヲ廣告セシメ或ハ法院ニ謝罪セシムル如キ處分ヲ命スルコトヲ得又損害賠償ト共ニ此等ノ處分ヲ命スルコトヲ得ト爲セリ

第七百二十三條

(理由) 本條ハ不法行為ニ因ル損害賠償ノ請求權ニ關スル特別時效ヲ規定スルモノニシテ此時效ニ付テハ既成法典財產編第三百七十九條ハ刑事訴訟法ノ規定ヲ適用スルモノトシ諸國ノ立法例モ頗ル區々ナリト雖モ本條ハ相當ト認ムル所ニ依リテ被害者又ハ法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知りタル時ヨリ三年間石ノ請求權ヲ行ハサルトキハ其權利ヲ失フモノトシ又如何ナル場合ニ於テモ不法行為ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキハ賠償ヲ請求スルコトヲ得サルモノト爲セリ